

- グループPSAジャパン、プジョー「508」のダッシュボードハーネスに不具合があるとしてリコール 19年2月2日～20年8月6日に輸入した1728台  
ダッシュボードハーネスの配策設計が不適切な為、ステアリングコラムと接触することがある。その為、車両振動等によりハーネスが損傷し、最悪の場合、ホーン、ワイパー、ADAS(運転支援システム)、運転席エアバッグ、ウインカーのいずれかが作動しなくなる恐れがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「XC40」のブレーキに不具合があるとしてリコール 20年8月20日～21年2月3日に輸入した2112台  
ブレーキフルードレベルセンサーのケーブルハーネスにおいて、製造時の組付け管理が不適切な為、ケーブルハーネスがエキゾーストマニホールドのヒートシールドに接触することがある。その為、熱により被膜が損傷して配線がショートし、ブレーキ関係の警告灯が点灯して、最悪の場合、制動力が低下する恐れがある。
- FCAジャパン、クライスラー「グランドボイジャー」・ダッジ「ナイトロ」のエアバッグに不具合があるとしてリコール  
運転者席側エアバッグカバーにおける作業管理が不適切な為、ブランドエンブレムを保持するリテーナが適切に取り付けられていないものがある。その為、エアバッグ展開時にブランドエンブレムまたはリテーナが飛散し、最悪の場合、乗員が負傷する恐れがある。 07年4月3日～12年4月26日に輸入した2083台
- スバル、「レヴォーグ」の電動ブレーキブースタに不具合があるとしてリコール 20年11月2日～21年2月5日に生産した1万2094台  
電動ブレーキブースタの内部構成部品である回転角センサのマグネットのモータシャフトへの組付け位置が不適切な為、イグニッションオンにした際などに、ブレーキペダルのストローク値をソフトウェアが誤認識することがある。その為、バッテリーが上がったり、クルーズコントロールがセットできずブレーキランプが点灯し続けたり、または警告灯が点灯してブレーキペダル踏力が重くなる恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、大型路線バス「エアロスター」のエンジン制御プログラムに不具合があるとしてリコール  
エンジンECUの制御プログラムが不適切な為、最大燃焼圧力がコンロッドの許容限度を超える場合がある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、コンロッドに亀裂が生じ、最悪の場合、コンロッドが破損して走行不能および火災に至る恐れがある。 13年5月29日～17年8月22日に生産した2146台
- ボルボ・カー・ジャパン、「V60」等計7車種のシートベルトに不具合があるとしてリコール 06年9月27日～18年10月26日に輸入した5万7545台  
前席のシートベルトにおいて、使用状態を想定した設計が不十分なため、シート座面の位置の状態によりフレキシブルスチールケーブルが斜めに引っ張られることがある。その為、金属疲労によりケーブルが損傷し、最悪の場合、衝突時にシートベルトの乗員拘束機能が低下する恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「C200」等計31車種も48Vバッテリー管理システムに不具合があるとしてリコール  
48Vスタータオルタネータを搭載した48Vバッテリー管理システムにおける制御プログラムの不備のため、他のシステムとの同期不良が発生することがあり、エンジンの始動遅れや、エンジン警告灯が表示されず一時的にエンジンが始動しない、エンジンが始動してもエンジン警告灯が点灯したままになる恐れがある。また、48Vバッテリーの内部スイッチが入らずに電源供給が開始されないことがあり、48Vシステムが起動せず、エンジン警告灯が点灯してエンジンが始動しなくなる恐れがある。 17年11月3日～21年2月8日に輸入した2万8361台
- ホンダ及び英国ホンダ、「CR-V」「インサイト」「シビック」「レジェンド」の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール  
19年1月7日～20年2月19日に生産した2万6355台  
低圧燃料ポンプのインペラ(樹脂製羽根車)にて、成形条件が不適切な為、樹脂密度が低くなって、燃料により膨潤して変形することがある。そのため、インペラがポンプカバーと接触して燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「スーパーグレート」の機械式自動変速機搭載モデルのイグニッションスイッチに不具合があるとしてリコール  
イグニッションOFF信号が意図せず発信される場合がある。そのため、突然エンジンが停止し、ライトスイッチをオート位置で使用していた場合は前照灯が消灯する等の不具合が生じる恐れがある。 19年12月25日～21年3月9日に生産した5506台
- トヨタ自動車、「RAV4 アドベンチャーオフロードパッケージ仕様車」の一部車両について、車両を代表する記号表示がない海外仕様のホイールを誤って装着したものがあるとして再リコール  
21年1月7日～2月10日に生産した807台  
リコールは20年12月23日に届け出ているが、新たな製造管理の不備が判明したため、対象を拡大して再度リコールを届け出た。アルミホイールの製造管理が不適切なため、車両を代表する記号表示がない海外仕様のホイールを誤って装着したものがあるとして再リコール。そのため、保安基準第9条(走行装置等の基準)に適合しない。